



奈良の民話を語りつぐ会 講演と語り

昔話は残酷か？

— 『三匹の子ぶた』の絵本をめぐる—

イギリスの昔話ジェイコブス版「三匹の子ぶた」では、藁の家、木の家に住む兄さん豚は、狼に食べられてしまうが、レンガの家に住む弟の豚は、煙突から鍋に落ちてきた狼を煮て食べてしまう。ところが、ディズニー版では、兄さん豚は、弟の住むレンガの家に逃れる。煙突から鍋に落ちた狼は湯の熱さに悲鳴を上げて森に逃げていく。本来「喰うか喰われるかの物語」が、「仲間同士が助け合う物語」に変化している。それでいいのだろうか？ 昔話は元来、子どもの生きる力をつけさせるものである。残酷だからと、むやみに変えていいのだろうか？

絵本の読み聞かせや語りの実践をされている方、孫や子に昔話を語ってみたいという方々、この問題を一緒に考えてみましょう！ それではお話のはじまり、はじまり。「むかーし、あるところに…」

◇ 日時：4月22日（金） 15:00～16:30

◇ 会場：ボランティア インフォメーションセンター

(JR 奈良駅西口より南へ徒歩約4分)



◇ 講師：奈良教育大学名誉教授 たけはら たけしげ 竹原 威滋

研究分野はドイツ伝承文学で、グリム童話や日欧の民間説話の比較研究に従事。奈良県下で民話調査も実施。また、「奈良の民話を語りつぐ会」の代表として、地域での語りの文化の再生にも取り組んでいる。「NHK おはなしステージ in なら燈花会」の監修・解説を務める。朝日カルチャーセンター樟葉教室講師。最近著に『グリムと民間伝承 東西民話研究の地平<退官記念論文集>』（麻生出版）、『カラー図説 グリムへの扉』（大野寿子編、勉誠出版）がある。



ディズニー版



ジェイコブス版（絵・いもと ようこ）

【対象】一般市民、お話・メルヘンに関心のある方々

【申込】不要 ※ 先着50名 【参加費】無料

【問い合わせ先】奈良の民話を語りつぐ会 事務局 小西雅子（電話 090・9992・6815）